

# 平成23年度事業計画

自 平成23年4月 1日

至 平成24年3月31日

## 1. 基本方針

地球温暖化や生物多様性保全など、地球規模の環境問題に対する関心が高まってきている。こうした中で、ファミリーパークでは、「人を元気に、森を元気に、いのちを元気に、地域を元気に」をコンセプトに、展示動物や園内の里山を活用し、多様な生物の世界やいのちのつながりを伝えるとともに、他施設や諸団体と連携する事業を充実させていく。その中で、より多くの市民の余暇の活用と地域の活性化への貢献や、市民が自然に対する生き方も体感しながら、考えることのできる場所となるように、園の統一的な事業展開と営業企画を実施する。

また、本年3月議会を経て、平成23年4月1日から5年間の指定管理者の指定を受けたところであり、平成23年度からは2回目の指定管理業務を開始する。今後とも、施設の効率的・効果的な運営に努めるとともに、適正な管理体制の確立を図るものとする。

## 2. 事業計画

### (1) ファミリーパーク新整備計画への参画

策定されたファミリーパーク新整備計画に基づき、今後の施設整備や事業について、情報収集や企画立案を図り、実施に向けて引き続き富山市と協議を進める。

### (2) 公益法人制度改革への対応

公益法人制度改革の対応への検討及び移行準備を進める。

### (3) 地域の団体や産官学民との連携事業の促進

自然体験を通じた環境学習や市民活動の場の提供、周辺施設及び地域、各種団体などとの連携強化や利用者の拡大などを目指す。

また、富山大学や富山県立大学、きんたろう倶楽部等と連携し、新しい教育プログラムや健康プログラムの研究開発の推進と効果測定の検討及び実践に向けた整備を行う。

#### (4) くれは悠久の森事業への参画

呉羽丘陵にある地域や学校、施設などと連携し、呉羽丘陵の資源を活用して地域の活性化を図る「くれは悠久の森実行委員会」に参画する。

平成23年度は、5周年の節目を迎えることから記念事業「森へ還ろう(案)」を開催し、市内の団体や住民との関わりを広げるとともに、「くれは里山ネット」事業や「シンボル園」事業をさらに推進する。

#### (5) 自主事業の研究及び開発

園の将来のビジョンや中・長期にわたる生存戦略についての検討及び策定を行うとともに、経営戦略に対応できる、新たな自主事業の研究・開発を進める。

#### (6) 企画事業

##### ①経営企画事業

入園者サービスのさらなる向上を目指し、園の統一的な事業展開を実施するとともに、今後、公益性を目指していくために、園の将来のビジョンや中・長期にわたる生存戦略についての検討及び策定を行う。

ア、平成23年度の入園者の目標を里山生態園のオープンなどから、昨年より1万人多い27万8千人とする。

イ、既存のソフト展開を体系化することで、各プログラムを充実させると共に拡大し、より多くの入園者の受け入れや、幅広い年代の利用者のニーズに対応する。

ウ、今までの事業の評価・見直しをし、新しい情報や体験を提供することで、質の高いプログラム展開とリピーターの確保を目指す。

エ、公益法人制度改革の対応への検討及び移行準備を進める。

##### ②広報・広告事業

ア、ホームページを活用した情報提供の充実による入園者の増加を図る。

イ、教育委員会等へ働きかけ、小中学校の遠足の積極的な誘致を行う。

ウ、平成22年度は、雑誌や新聞等により中京圏を中心とした近隣県に周知

活動を行っており、23年度はインターネットを活用し、より広範囲に情報発信を行う。

エ、その他効果的なツールを活用した広告・広報計画の充実と対策の検討を行う。

### ③ファミリーパークPR事業

ふるさと雇用再生特別基金を活用した本事業を推進し、平成23年度は富山県内全域を対象に幼稚園や保育所への出前教室によるPR活動を実施する。

## (7) 動物管理事業

一部公開した里山生態園などでの多様な動物の展示と普及啓発をはじめ、スバルバルライチョウやツシマヤマネコなどの希少動物の保護増殖に努める。

また、在来馬を活用したホースセラピーや動物とのふれあいを通して命の大切さと人と動物の関わり大切さを伝える事業を展開する。

### ①ファミリーパーク新整備計画への参画

仮称) 命ふれあい冒険村における、いのちの体験ゾーンの事業計画や整備計画について検討し、素案をまとめ、無料エリアの測量を実施する富山市の計画と連動して、協議を進める。

### ②里山生態園事業

ア、展示動物(ニホンザル、タヌキ、カモシカなど)の飼育展示・飼育管理を確立する。

イ、自然観察舎内のホタルやモグラの展示公開について、富山市と協議しながら実施する。

ウ、里山生態園を活用した、里山の人と動物の現状を伝える啓発事業を検討し、実施する。

### ③在来馬保全活用事業

ア、木曾馬や野間馬の展示を通して、日本人と在来家畜の関わりや文化を伝え、その普及と保存に努める。

イ、在来馬を活用した乗馬や田起こしなどのふれあい体験を充実させる。

ウ、「障害者のための乗馬会」について関連団体との連携を図り、技術の習得をしながら継続し、ホースセラピーについての調査、検討を進め、実践する。

エ、緊急雇用創出事業を活用して、乗馬を通じた事業の展開と充実を図り、

事業参加者数の5割増を目指す。

#### ④ライチョウ保護増殖事業

- ア、スバルバルライチョウの飼育繁殖に取り組み、技術の確立を目指す。
- イ、スバルバルライチョウの生態展示を通して、ニホンライチョウとその生息環境の現状を伝え、高山の環境保全の大切さを普及啓発する。
- ウ、スバルバルライチョウの生息域外飼育について、国内飼育園館などと情報交換や共同研究のためのネットワークを構築する。
- エ、第12回ライチョウ会議への参加など、ニホンライチョウに関する情報収集や調査研究を行う。

#### ⑤繁殖研究・調査研究事業

- ア、ツシマヤマネコについて、環境省の飼育下個体群繁殖計画に基づき、繁殖研究に取り組み、飼育繁殖技術を蓄積し、保護増殖に努める。
- イ、希少野生動植物種であるグレービーシマウマ、レッサーパンダなどの飼育下繁殖に取り組み、保護増殖に努める。特にフンボルトペンギンについては種卵移動なども検討し、積極的にその繁殖を推進し、個体数の増加を目指す。
- ウ、日本産動物の飼育繁殖に努め、タヌキ、ムササビ、モモンガ、ノウサギ、ニホンリスなどの繁殖技術の確立、ニホンカモシカ、ニホンジカなどの個体数の確保のための繁殖、テンや小鳥類などの未繁殖動物の繁殖研究を進める。
- エ、未繁殖動物であるカピバラの飼育下繁殖に取り組み、繁殖技術の確立に努める。
- オ、死亡により展示中断しているダチョウについて、種卵を入手し、人工孵化や人工育雛に取り組み、繁殖技術の研究と展示の再開を図る。
- カ、ツシマヤマネコの繁殖行動、モグラの飼育展示、ホタルの周年飼育などについて調査研究する。

#### ⑥展示事業

- ツキノワグマ、ダマジカ、ホンドキツネなどの動物の行動展示の充実を目指す。

#### ⑦収集事業

- ア、日本産哺乳類の展示の充実、繁殖技術の確立を図るために、特に高齢化の進むノウサギ、ニホンリス、ニホンジカについては新規個体を入手し、

血縁の更新をしながら、個体数の維持を図る。

イ、配偶個体が死亡したカワウソについては新規個体の導入を図る。

ウ、血液更新が必要なミーアキャットについて、新規個体の導入を図る。

#### ⑧教育普及事業

ア、こどもどうぶつえんの教育活動を充実させ、動物とのふれあいを通じた、動物の多様性やいのちの大切さを実感できる体験について今後の新しい展開を検討し、試行する。

イ、動物を活用した、各種動物ガイドやイベント、実習・研修を充実させ、事業参加者数の2割増を目指す。

ウ、悠久の森事業や動物関連行事などを通じて、人と動物の関わり大切さを伝える事業を充実・発展させる。

エ、学校等教育団体に応じた体験プログラムの構築を進める。

#### (8) 地域事業

産官学民との連携を強化し、そのネットワークを活用した多種多様な行事や、教育活動を企画実施する。このことにより、幅広い年齢層を対象にファミリーパークや呉羽丘陵の利用を促進し、持続可能な地域社会づくりにつなげる。

##### ①イベント事業

ア、ゴールデンウィークや夏休みなど、季節に応じた、音楽や芸術、スポーツ、文化、自然、健康などをテーマとした、多様なイベントを企画、実施する。また、平成23年度は延べ6,000人以上の参加者数を目指し、幅広い年齢の参加者が楽しめるような内容を検討する。

イ、「カターレ富山」のアウェイ戦を放映するパブリックビューイングを実施し、元気とやまの創造に貢献する。平成23年度は1回の開催で200人の参加者をめざし、より一層園内の賑わいを創出する。

ウ、閉園後の施設を活用し、自然を感じるコンサートを「ファミパでライブ実行委員会」とともに開催する。

エ、市民いきものメイト、きんたろう倶楽部、アースデイとやま実行委員会、ライトレール富山株式会社、株式会社まちづくりとやまと協働で、市街地と呉羽丘陵を結ぶ「キャンドルナイトとやま2011」を企画、実施する。

オ、首都圏を対象に、パークと呉羽丘陵を活用した体験ツアーを東京大学大

学院と協働で実施する。

## ②地域連携推進事業

ア、悠久の森実行委員会やその関係団体と積極的に連携し、呉羽丘陵を広く活用した事業を展開し、これらを定着、発展させることで、持続可能な社会づくりにつなげる。

- ・ 5周年を迎える悠久の森フェスタ・フォーラム「森へ還ろう」の実施に積極的に参画し、呉羽丘陵の活用を具体的に推進できるものにする。
- ・ シンボル園の運営、活用を検討し、事業の活動の拠点とする。
- ・ 悠久の森連携事業（里山ネット）について、平成23年度は12事業に増やし、500人の参加者数を目指す。

イ、輝け！いのち協議会と連携し、いのちの尊さを普及啓発する事業「輝け！いのちの集い」を実施する。また、学校や学生と連携を深めることで、さらなる定着、発展を図る。

ウ、富山市や県内の大学、アースデイとやま実行委員会など、産官学民と連携し、音楽や芸術、スポーツ、文化、自然、健康などをテーマとした事業を積極的に推進する。

エ、古沢地区や日本海ガス株式会社など、地域社会の健全な発展を目的とするボランティアグループの活動を積極的に支援する。

## ③動物・里山教育プロジェクト事業

ア、富山県立大学やきんたろう倶楽部と協定し、呉羽丘陵で展開する新しい教育プログラムを研究開発し、その効果測定を行う。

イ、富山大学やきんたろう倶楽部と協定し、健康プログラムを研究開発し、その効果測定を行う。

ウ、団体、個人と協働で、薬草や和紙など富山の特徴を活かした新しい里山の活用システムの構築を計画し、取り組みながら、富山の伝統文化を持続できる活動を展開する。

エ、学校で実施する生活科、総合的な学習や、さらに ESD 関連事業などへ積極的に参画し、健全な人材の育成や持続可能な社会づくりに寄与する。

## (9) 里山事業

園内の里山を活用し、人と生き物の関係が体感・体験できる事業を行い、事業を通して森も人も元気になることを目指す。このことは低炭素社会への意識

を啓発するもので、環境モデル都市づくりにも寄与していく。

①ファミリーパーク新整備計画への参画

ア、策定された新整備計画に基づき、里山の活用や保全方法について検討し、実施に向けて引き続き富山市と協議を進める。

イ、森林体験遊具、里山体験活動の実施計画に向けた検討を行う。

②里山活用事業

ア、木の実や野草を用いた教室活動は、平成23年度には昆虫標本作り教室も加え、参加者の目標を500人とする。

イ、他施設および団体との連携で実施したウォーキングイベントは、より連携を強化し、平成23年度の参加者は1,000人を目標とする。

ウ、呉羽丘陵を利用した持続可能な里山利活用事業を通して、社会貢献活動を目指し、新規に和紙づくり事業を検討し、試行的に開始する。

エ、多くの市民に里山の自然に親しんでもらうために、自然散策路のサインやガイドで普及・活用を図り、自然を通じた日本人や地域の文化も伝えていく。

③里山保全管理事業

ア、生物多様性のための環境づくりを目的に、自然環境保全整備を行う。

イ、地域や企業と連携し、ホテルや紅葉など四季を通して楽しめる名所となる事業を進める。

ウ、市と進める里山景観整備事業は、平成23年度は地域のボランティアと連携して8,000㎡を整備する。

④里山整備研究事業

ア、地域や市民ボランティアと連携し、里山の希少野生動植物の環境保全に向けた調査を実施する。

イ、絶滅危惧種であるホクリクサンショウウオの定着及び生息環境保全を、地域住民や福井大学医学部、両生爬虫類研究会など近県の研究グループと連携しながら進め、その成果を多くの市民に伝える。

ウ、里山に住む多様な生き物の情報をホームページで発信する。

(10) 特別会計事業

ここ数年は、年間売上27,000千円を目標に事業を進めてきたが、本年度は入園者の動向と、そのニーズに応じたサービスの提供を図るとと

もに、売店・食堂やその他事業など、さまざまな企画や物販を展開し、収益の増加に努め、手数料収入の見直し等も検討し、年間売上28,000千円を目指す。

①売店・食堂等経営事業

ア、入園者の利用状況を調査し、ニーズに応じたメニューや商品開発に努める。

イ、ファミリーパークオリジナルキャラクター里ノ助のオリジナル商品の開発に努める。

②その他物販事業

ア、季節のイベントに合わせた出店や移動販売を行い、サービス向上とともに客単価の上昇に努める。

イ、地元食材を素材にした商品の販売を検討する。

ウ、地域や外部店と連携した経営戦略を検討する。

エ、バーベキューコーナーを充実し、利用促進を図る。

(11) 施設管理事業

①施設の老朽化に伴う安全対策の徹底を図る。

②遊具施設の維持管理は、各種法定検査を実施しながら、運行の安全性の維持を図るとともに、今後のあり方や運営について市と協議していく。